

宋朝文鑑



75

70

65

60

55

50

45

宋朝文鑑卷二

賦類

硯賦

既望賦

涼賦

將墓賦

讀將墓賦

日和山賦

悠然賦

好色賦

行類

水波行

方上歲行

吟類

雨夜吟

曲類

於曲

田舍曲

東曲

舞子曲



賦類

硯賦

北季吟

物とりてあそひてなる志と生ふへば人づかべ
おじにれも又心のよしかよあれいやくを承る
ありてあくまのむれありてうきをあくまが
そきよよの都をやふくとくらへる
いふくさくやばはれのばれくあらはりわざ
そくそくもゆづくがくくふくみもくらへ
まくまくとくとくとくとくとくとくとくとく
きのむすとくとくとくとくとくとくとくとくとく

の申すうけむじりうけりうみのうとあらひ人の世
にまのうへうへうへうへうへうへうへうへうへ
うへうへうへうへうへうへうへうへうへうへうへ
うへうへうへうへうへうへうへうへうへうへうへ
うへうへうへうへうへうへうへうへうへうへうへ
うへうへうへうへうへうへうへうへうへうへうへ
うへうへうへうへうへうへうへうへうへうへうへ
うへうへうへうへうへうへうへうへうへうへうへ
うへうへうへうへうへうへうへうへうへうへうへ
うへうへうへうへうへうへうへうへうへうへうへ
うへうへうへうへうへうへうへうへうへうへうへ

ことのとくをあけがたし月とて
ひじかのうりやまへむゆう月とてあれ行ひ
神とまへと申う通途あへもしてまよひもあ
くらへねりしむせあいもてあふるゝあ
そくむくやよぐ石よ人もくくばくとく
狂云世樹の文章の墨尽にて始ニテ西カ壽天ヨリ此
ハ墨雪ノ文浮サラムイ終ハ石よ人ノシモラスイテ全篇
硯ノネラ顕ガスルまゝ隠見ノ格ニテ倭文ニ一体
奇絶ト称スレ然ルニ壁ノキラモトニル前後ノ通續ヲ辨合卷二
入但シ原氏ニ玉露ノ聲ヲ云ルニヤ知ラヌまハシ夷北付

ミテ事ニテ学ノ各ラ称ニテ始ハ洛ノ新玉津鳴佳レ行
ム禄ヲ得テ武城ニ官仕ス歌書ノ抄物モ數多ナリトフ

既望賦

芭蕉庵

らと月のぶ興あけやまへむゆう月とてあ
されて船とかく回の浦うそとてこりもとだれ
のわとあんじやうく廻るとつ人のふのぬ浦れ
て醉みねまの月ようれでまわるめぐと船の
すらりあくよよとあくとそひきそひくよ
うちひて簾とやよらうとけふよなれ園

すあつらをあつて即ちの日立とすすめ
やうに岸上は際とすすめの風とすすめ
の風と滑と自らすすめとすすめの風
をあやまつてからすすめとすすめの風と
月のほんきとすすめとすすめの風とす
今や風とすすめとすすめとすすめの風と
それ以上水空をたどりとすすめとす
の風とひそとすすめとすすめの風とす
よそのうらがくれきとすすめとすすめと
すすめとひそとすすめとすすめの風と
すすめとひそとすすめとすすめの風とす

とすすめとひそとすすめとすすめの風とす
の風とひそとすすめとすすめの風とすすめ
あくまで新柳の風とすすめとすすめの風と
とすすめとすすめとすすめの風とすすめと
すすめとすすめの風とすすめとすすめの風と
すすめとすすめの風とすすめとすすめの風とす
て常寂ねの風とすすめとすすめの風とすすめと
てまわる音とすすめとすすめの風とすすめと
岸上とすすめとすすめの風とすすめとすすめの
風の風とすすめとすすめの風とすすめとすすめの

狂云也附ハ誠ニ劉亮ニシテ全ク賦体ヲ尽セリト云ニ志ハ
鏡山ノ一節ヨリ古事ニ六月ノ雲々ラ書セテ此其の夜草
主張ラ云ナガ詩ニハ玉塔ノ喻ヲ借テ千駢仙人鬼ヲ添フ
をモ故更古詔角ノ所ハ此等ノ橋株ニ知ニキトウ本ヨリ
尤翁ノ文章ハ卿子庵ノ遺稿ニ數多ナロラ或ハ湖東
之文選ニ入り或ハ門下ノ脚文集ニ當テ今ヤ再選スルニ
足矣譬^ア而論^ア而論^ア見^ア足^アモ此^ア篇^ア人^ア類^ア意^ア見^アテ此^ア一篇^ア
ノ虛實^ア知^アハ和^ア之^ア人^ア盡^ア莫^ア及^アニ明^アカニ仰^ア謗^ア頃^ア懶^ア
空^アニ明^アナラン去^アルハ其^ア行^アノ詞^ア入^アカリテ歡^ア乐^ア中^ア哀^ア情^ア
アモレサルハ例^ア樂^アニテ優^アセストヤ斯^ア翁^アニ於^アテ斯^ア文^アニ

序賦

渡吾仲

洛陽の北より川ありて上とかり川とひーと下より川
いふすもうやくの石川や岸のよし川とも下より川
され乍る年の六月七日より十九日わざとよりみ季
の候のこあくとむらこゑの候とかくよりてはより川
あく床とす一舟もこれの舟とあらびの舟と云ふ
どもものひつにまわるの舟とひつぶやかれて舟と
といふものとむらこゑの舟とあらびの舟と云ふ
せよけよどうらりし以やえやシの綿襦をがまう

詩の風景を以ていれども、ハやうとあつよひ
はあわゆる岸のまへてやうやくの帆打とか
さうの島のひととき、さうかふる歌うるはさみ
れ森に余るのさむともやまと、山のれいに
廢だとうけ行ふと、も仰たんの事、おこがの
やうの西川りあうじ、船のそよぎとさむれうを
あらわのねと深うれて、高貴うるゝ、御園のあら
すき方壁のひらえ、向とあらひ、院香火廻の
そよびとけづり、もうひかりうのそよぎと
さうよせ而くらむまの風草のあらひ

あはれとぞうちりて、ひそかの河あだり
餘あらはあらかずの事、あらてほは波の聲と
うぐいす子の比歎入きまくらく、石花すまの歌
ひのくと八十枚の歌内、とまくらふもあまか
ばすまふかとくられぬまむさか即ちのち、今下まよと
述証、あらう故ト仰らうと、さくまくす中とあ
を下さたと語くとさくとさーしめ、と水裏投
猿猴のよとがく、めうと滅多的と王露せ月と
あまくはよ軍旗のもとほ、移す乞食のせと
くく歌つうのせ獄むすむ歌と一隊、善西と

見され一匁よ全のみぞひの字より中よりねへて
ひーとみのよびへきよ便にひの印へさん
久利の向ふへとゆきうやと左の筋へスガとこまれ
まくやられよのこよの字よもがくわむよ
あくわしをかほのゆすゑくわくひまく御の
ゆくうやくせりとくくさもられあくくー

狂云世跡ハ綻擣無碍ニシテ始ハ玉城ノ万代ヲ祝シ中ニ
帝室ノ花美ラ顯ヒテ終リニ遊人ノ哀モラニル誠ニ長安
名利ラ観シテ然モ長安ノ名利ニ遊リ或ハ當時風景
ニ和音ノ文法ラ交ヘタル或ハ家名ノ和町ニ浮世草紙

筆格ヲ用イタル或ハ河卓全實物ニ長短ノ對ノ賦体ヲ
セル總テハ詒諺ノ筆格ヨリ新古ノ向ラ令成セリト云ニレ
況ヤ儒仏ノ高論ヲ舉ケテ其トカ結語ノ輕急ナル宣
文牽々虛無久ラ傳ヘテ洛陽ニ作有アリト称スニ但
セ即ヘ渡部氏ニア別岳岳生園ト云ア馬キ人ハ権界
リトソ

將軍賦

東山比翁

象獻と畜鶴のあといと書ア本わよみ草
とつよやうり張陣の法ありて盤上又智惠とさ
かづむ圓の王のにあくわよ忠臣の養ふん

や勝負に付の運とよきと上手い。つむぎの道を
あさーりと馬の法とよびたかうひもかどひ
日本弓櫛ヤニキと金銀種番とハシユモテてん車
又角行とも軍師の位ある一ひりを屋へ張良
あら寫され明るううとさ諸車ツチとて一てせの
ト知よきくらとすりのあらわに銀將ギンザイの
諸車あらうて敵の城シテを入へ付へとよ一てと
や、金將の位とあらえと将軍の勧賣アマとよ
あらげぬよ止まうて猶タクの羽とあらうてえよとよ
諸將とその辺ヒテ敵陣と交戦よと車ツチと秀車

にひ角行とく陣馬アリとよは二騎ツキを従シテ調
えられたまの諸トの勇士とよこ一ひりとん車と
居れん車ありて角カタとん車あり中ウチとん車ツチは法の軍
立われて中央と銀角ギンカタのすきりとよもひ二方
一丘イチクの頂あり丘書カブシキとよもひ逸勞エラフの法ありてもひ
かくへ行カクヘイの歩とほけとひそり或とゆ故コトとん車
のわすれしよよそれをもひそりとてよそへ軍スル
空スカムとよそれをもひそれをもひそれをもひそれをもひ
車ツチとよそれをもひそれをもひそれをもひそれをもひそれをもひ

おほほ二方の大将と討うて馬の足をのぞとうかうり
ふきの敗軍にてあくあくひつとやす鶴の弓へ麗
麗のさよよとくわざとくわらひ書きの詩むすめに
はちあれ敵はよそへて王のやくらとすひすう
アラモト種馬ごくねもくとう銀とげ羽根ふく
金とうらだて種馬の隊よくまわれ駿河見壁
しゆとくよいとぬかくそと龍王のよす押しついて
元軍のぶの軍術ありわざとおのよせ赤軍よゆ
さくはさくわくり風あれてもくらふ令とまつ
すむほんとうの時の色よひひてかむえりやま

されうきりあはれふきよふに感ち歌あふて
まくか歎とててあるくらうのひやく前か
やの達よこしてよきのかの勝と幸よしむかのゆく
うる田てつる馬かくま車をとめとあくふか
一金銀と川かく船車のきくらと金とあくもむね
のあらがくこよしむらみの神達よまくらさん
東をあぶ王と御車とやすれかの轍とくろまが
はく敵をよみとばくとや王様のたまくのあ
にふ千銀とあら種とよみとよみと
送向とわくよひよくとよみと王とお車よとがきて

や一の勝とわよとさく角のまの神はうて
すむともう一とまよとすまへる軍の軍の
主て勝とすまうもやもあまうとやまゆすまの
口砦キサカと王の軍のうかね角りと誰もうれ
角の主はのうとあんと連主能登の主を論
えらひのうとがく陣中のぶほうと澤井の主
よもうたうがくらみあはは陣中よふらの主
ていふ角行とじふのぶほうとほつと軍所
よもうとらやくやく度のうと龍馬や
ありうてとおへて威風とあるとよ人のおも

角のほく角ゆくとひきもものあへる一全情
王禁とくあれとく禁とせのがへるからて諸事
の竟争とくとくとくりやとくとくとくとく
かくとくあへる銀情のきとくとくとくとく
ひくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

「このほのまよ裡とおうてせのあたがいをもどせ
もうよ銀将をもどしてはひて、おもえ陣のふ
とかくちや。ありこれほんにかく、一往り一おれ
見えつことおき敵となはよ。かみをそむる軍
との本とよあらとふばく」ひ「朝夷夜あ
首門^{シラゲ}陽王^{ヨウウ}も^ミ魏^{エイ}も^ミ天^{スカイ}
ひ^{シテ}金^キ元^{ヒサシ}事^ト十^ト勝^トと^ト二^ト三^トと^ト
と^ト四^ト五^ト六^ト七^ト八^ト九^ト十^ト十^ト一^トと^ト
乃^シと^ト金^キ元^{ヒサシ}事^ト十^ト勝^トと^ト二^ト三^トと^ト
と^ト四^ト五^ト六^ト七^ト八^ト九^ト十^ト十^ト一^トと^ト
乃^シと^ト金^キ元^{ヒサシ}事^ト十^ト勝^トと^ト二^ト三^トと^ト
と^ト四^ト五^ト六^ト七^ト八^ト九^ト十^ト十^ト一^トと^ト
乃^シと^ト金^キ元^{ヒサシ}事^ト十^ト勝^トと^ト二^ト三^トと^ト
と^ト四^ト五^ト六^ト七^ト八^ト九^ト十^ト十^ト一^トと^ト
乃^シと^ト金^キ元^{ヒサシ}事^ト十^ト勝^トと^ト二^ト三^トと^ト
と^ト四^ト五^ト六^ト七^ト八^ト九^ト十^ト十^ト一^トと^ト

銀將のまの軍団あれは、裏砂のじゆくをもむる
のまゆらう徳ある」されど敵王アリシタスもじしもと
きことらへまゆる敵をすの賊とくとももう」
かくはなで敵一筋すありある」金將一筋もくする
かくはなで敵一筋すありある」金將一筋もくする
といふれてもう一金將の敵とおどりけはせきと
もしじはくわの准ムツもだゆく危よびとしてそぞく
すあくまちよき猪の肉ニクをかゝり、龜のさうる
ねくふくくく張儀楚秦チキンやうを辨舌ヒンソクと

敵國とそもやひよと竊ひて不善とせよ
そわざに害の活とくられてかゝるよ
とふにやあは玉軍の高麗と節へと
取るよと腰持をして歩きゆくにやふ
神の靈とほんとうにうなづくよ痛むとい
ありわ極もとまつまへきりと極馬のまよ
とひてせ智よかとよどとせらかと極馬のまよ
諸どひえを極馬のまよ諸とよけの軍の
ひよと敵のゆひと元寇へえとよてほの軍
みよとあらき車を角整のわ姓立るうる

すけりてよしゆきをもるいの軍とよ橋へ
おの面白とよじとよくさのあらかじめ
れで素スヤウ籠とけうあめ一派あると一陣よ
ももしゆよ兵の善用とよらへてりと籠をと
そうちれよれにかへりひへてとへうよと
いね悔もよきのてうよとよ一かへて西陣
西王と昇へて始とともの「よもじ」と先
みれよもじくよとよもじとよとよとよ
透とあきひ枝とよよよとよとよとよとよ
とよとよとよとよとよとよとよとよとよ

トアリトテ自らも詮るふを所会のふと
モリテ今下とぞとぞとぞとぞとぞの所とぞとぞ
モリテ言ふとぞとぞとぞとぞの所とぞとぞ
詮高うねハ陣圖とぞりて神伎妙義の諸事と
モリテ常桂のあよヘ怪事狂どにぞりて奇戦擒
將の法とあよモ尋覓を油新た敵のアモリ
儒仰毛毛と詮じくまくアリムのまにとぞとぞ
ノ一月の情り莫ともあれれども空氣とぞ
參戰アリととととととととととととととと
とととととととととととととととととととと

鉢ともあとされハシルヒトヒのスル所とぞとぞ
とぞとぞ船盤の法とぞとぞとぞとぞ

讀將墓賦

村野航

計京ふ一袖の差物あり歸れハ万里の天アマツシラフ
ト龍王の髪ヒツガアモシムアモシム猪シロアモシム
ホ馬の驕ヒカクアモシム海シマアモシム海シマアモシム
カニ一トアリ實ヒツアモシムとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ
アモシムアモシムアモシムアモシムアモシムアモシムアモシムアモシムアモシムアモシム

剛憲は、ほえの軍とらひし軍隊のに勇力うへ章武の
詔とくのこゝろの御國のあひいあへもかまひと
て上とだりよと車のあとをみて中殿（ちやん）もあれ
あきぬを輔つて、あい角りめりまの山伏（さんぶく）
やうて、蓬楚の川流を張表（はり）。謹乎（ごう）一ノ次々金持銀持
と、剛羽張を、異見するありて、武綱、平、力事（あ
モ金、宗成の憲病（けんびょう）と、雜兵（ざへい）のひ、学齋の
ひりらり銀入韓信（ぎんりゆかみ）、勇氣と、すとわれ、諸王の頭
と、武衛の名と、くくふと、官を除（はず）すからく
のうむたのくに、ヤードカムと、やほく体毛（たいもう）か様

あくまく体馬を張楚（ぱうし）、辯あひて、墀と麁（くじら）駒（こま）
さうと軍と、もへ林（はやし）と、賦の名言あん或ハ免（めん）免（めん）か
おノ一ちき以逸（いそ）待勞（たいろう）、と、兵書と、人の足馬と
よわ葉の戦（せん）、言（こと）うあく、うそ、言（こと）うの言（こと）う軍ある
と、裏ひの二年、文書ともづき、人或を、手と、もひて
ものか、と、かく、人と、あさひる、事のらふ、いはれ
うひと、命てそきりせせ情と、よひて、傳うの文書と
も、すみより、仰家の、へ放と、指スリテ、うそ、行々、将サ葉（や）
以喻（いよ）あつて、和僕の情と、そも、あらも、うそ、と盤上（ばんじょう）
あらひとと、そくへま跡（あと）して、あつて、うそ、君帝（くんだい）、竹子

これと云へれど西の人民ともいはれど金敵
ノ割陸の人と勝川人ふまといられかゝつてゐる
船遠の旗を貢うる奈候トドハシヤハシシの其事
も一考すとふくらむ其事とぞとくふ
にてせらひよき之兵のけりきと、各人號の號カレテ
駆スマ一の情とおかれ仰ス互よ居のやといく
とる遠く大船君の其事とぞくわんじく近く十日余
の時時とぞじゆ

往云武の扁ノ前題ノ註ナラ未サク故寔古詔ヲ解スルニ
えニ六句對アリ意對アリテ體に賦體ウ脣成セリ註

應用自在ト云しあは前公口傳類ヨリ言えモ讀ハニ子
テ題セリ並ヒセシ扁ノ題ハ殆ニ卷歸ノニまテ和漢
万船ノ情ク喻一儒公ニ四ノ理ヲ演ヒニ或ハ重起リ風
輕シトハ孟父アリ毫ノ贊ク擣シ杜陵カ胡馬ノ詩ヲ殊シ
或ハ保元章缺トハ和ニ信賴ノ故軍ヲ云々涇ニ孔明アム
師ヲ云ル但シ先帝崩御ノ年号ヤラン或ハ關羽ノ對云
和漢ニ智勇ガノ無エラミアドア四見トカ味トハ互見ノ法
ニシテむしモ嚴畧ヲ三葉タナリ音信ヲ宗成ニ韓信トハ
金銀ノ情ヲ青ノ下ニテ文章ノ汎情ハ云々知ヘシ或ハ竟れ
ノ對ニ其レラ教ヘバ其名ヲ云イテ是ラ爲トハ將裏アラ云

（ルをモ隠見ノ法ナカラ其是ノニテニミヤクテ此等ハ奇
絶ト称スレ然ルニ結詔ノ大般若ハ壽基中特其事トシフ
ヨリ摩訶大ノニテニ縛青ラトルサ等ハ當意即所トモ云
シ組レ野航ハ加々裏申ルヤ別姓ハ村瀬ミテ濃ノ山縣ニ
住ス董ニ房ト徒サナリ

田和山賦

岸町食

満ノ川程ホトコノセキノ處ノ度ヒスケ眼裏
くもアシトセアレハ津のりキヒヘアツシ國川と
茅レノ五石田セ禪ヒテ老農諱ヒテ仰之也

トアリ一白毛トロ金の毛色トシテアタマハ墨ムウカシ
アリテ津ユチモテアリ津アヤダホト一林屋セ御ツキモ
モ市店の白壁コトアリテ南ヒ金剛寺^{タケニシ}同靜
カ殿石といヒト北ヒ月夜來ます入きの鐘ヒテアリ浦
の落附シル御前ハ觀音セ多ムの様也サレヒト多ミアリ
村松ヒニ南ヒ行モテシヤアリ以ヤヒ北ヒアリモテ
西南ヒムヒトアリ白根のヤドヒ一ねアムヒト新羅
の月ヒ千重ヒキ御むかしまく眼男ちかくヒムルアリ
シトホセセバヒトアハシヒテ影ヒシ和ヒモテヒモテ
ヒテアラ字セモ子ニモキセモヒトモテ縣のね風ヒ秋ニモ

近きにあらうとまよひふと凡雅の人とすこ
いさりあはせへすねの夕日あやかすあわの
あ風くはよきと観音のふとあらかく涼とまほの
倭くわんかくわう詩のもだるくはるくとす
の川のうらもむくお歌のあ膳も振浦の室鶴も
長崎の蟹く上うの用とらむくと高屋の鮓く下鶴
のこよづれにて淮頂きのねゑに昔の軍北みゆめり
かれちゆの舞天とうの幸れ福とあくと、猿森あく
鷺すの内と雄鷺く神のこゑをひして船と飛す
ハ秋のれとつりまつまつてね鷺の月夜と

うすて市食のしと獨り夕陽とぞふれこ里津の
煙くはの浦よかかひて川まことにかくとす
それとせ津の遊すよせ娘鶴の舌ととくわ男鹿の
舌くらでわくく海くあくわくまくのひとと
ひくうて化を被う内とみのひ入よのまく行うり
衣袖鶴のすよあくわくじ近まくしむよあくまく
の恵めんくわくうとせんととれて行うも難の
ふよにのうよとせんとせんとあく跡とくとくとく
森とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
三ツ疊の池とくとくとくとくとくとくとくとくとく

ハシマリカクヒラヘト船ひのうゑとひをまよ同
の事え記ともうしも秋のれわとひくじへく夫也と
人の和へもうひとづこてほの向むかひうるをと
まつにやらの脚にうきてかくせんとひくもくへ
狂云サ萬ハ全ク體体ニテ文法殊無事ナリ始主勢ヲ華禪
ニテヨリ金鳳月夜空ノ幽寂ナル自根ニ新羅ノ一對ハ筆ニ
天地ヲ縦ムトムニキハ山海ノ各物々賦テ上戸ニ下戸脇ハ裕
自在ニテ握ヘニ事ヨミハ文法ノ向後ナラン或ハ存ナシ一段
ニ胡蝶ニ雪ノ席ハ奇妙ニテ佐夜姬ニ衣通帳ハ時ラ得タリト称
スレ然ルニ朝雲暮雨ニテ予ハ宋玉カ賦ノ神女ヲ備ナシ

ハシノ寄ヒタルラ長恨辛ノ情字ラ含ミタル誠ニ博達自
ムニシテラ江河言嘆息ニ寄セテヌニ萬物ノ實相即ト
博ヒル本朝文粹ノ言語類ニテ合スレシ縞テ竹湖ノ趣ハ凡雅
ノ人ヲ待フトニヨリ北山移文ノ山靈ニ寄ロテ北山夙夜慕憶
トムヘル鐘山ノ黄雲巫山ノ神女モ立ニ文章ノ起結ニテ
一萬首寄ラズレニレ但シ作有歌ノ國佳山岸名ギハ士ナラ

懲愚賦

蘊之子

雪のわりうねりてやうす晴くうれせ若庵もあつ
て仰のあたふよみありまよとじとよはくあれそ

昌と申じておれよりまへりまへりと人とのをもつて
おれよりはおれよりのくわへせむるにあらばんや
その事に弁のきくよかもといためう弁へ人のきくよ
とやうあり近づけやとをもはしやはじるのう弁
とひいのとつあつてはくと人とのりとす
みことあると人とはまとすあくまといひをいふを
とすととあるとあがりらひてからがくのゆゑ
もせねにえをゆあつてゑあくひくわへせむるに
あがひんといふよと人とみすをて
おれよりはおれよりのく

狂言賦ハ因置詔格ミテ然モ文賦ノ劉亮シ及ヒニ固
ノ悠然ヨリ或ハラモノ爾季ヲ用イチハナノ其述ヲ用テ總テ
其フ詞テ累々ルニ子モ其用ヲサタ等ハ渥文ノ尽サル
所ニソ宣ニ和文ノ風格ヲ知ル一レ但シサ君庵ヘ賀ノ金城ニ在
テ駄口子ノ年壯ナリむモ水行ノ金居ニラ然レニ名譽シテ
トハ前ニ梵師ノ陰陽ナラ裏ニ五音モラ讀丸時ノ行題トソ

名色賦

画好法師

つあよい／＼とまことのよらんとをい／＼と
ふくびの盡のれとあよ／＼とらむとよ／＼と

あらんとてあらんとよとやまとひあらんと
せーととけいじよのりとまふくあらんと
ろひとれよるとかくらをほくよやくくじねふと
こやかくまれるうとくらをほくよやくくじねふと
こもとてすとくらをほくよやくくじねふと

うゆふくらをほくよやくくじねふと

狼云竹馬ハ世ニ知レル徒然艸ノニ既同ナリ然ニラ宋玉カ
ニ效イテぐつニシテラ題スルニ直無ハ異ナトモ且つ三島ハ同キ
ナリカモ既段ハ直書角弓ニテ古今ノ物語已ミテ元朝
八倒ス志ルハ学文者ノ如日ヒニテ色ハ好トニシキ經書ヲ讀ヒ

色ヲ好ミ道理ラ知ラス博ニアシテラ解セスマト徒然詩
ニモ尤論アリ誠ヤ一好ニラ擇字トスレハ聲言ニキノ宮女ヲ
擇トモ次モ情モ世ニ勝レ一生倭ノトモ飽ストニフ天下画
双ノ義人ハナキ故ニワ好ハ独處ノニヨラホトテ是ニ五兒ハ
無毒ノ道理ラ云ヘリ故ニ五兒大丈ハ對唇ノ妻ラ魯ソ
五人ノ才ヲ盡シ宋玉ハ^{エシ}屬輔ノ婦ヲ擇ニテ独處ノ田力丸
三好ノ五兒好色ハ宋玉カ云ル好色ニテ至ラ妻ハ田力丸トモ
ナラン誠ニ世段ノ最竟ラ知ラスニ百全段ノオシニ置ケサル
ノ故ニモ明カリ五好ノ一生モ明カリ儒仙ノ方教モ聖ナルレ

行類 水波行 盛事

岸曉齋

三國の北一里そぞり大澤ふの草木は曲ありて所と
車尋候とてよせよけよ先に師ひ天ひのじりくと
玄のやうあまた寔徒るりし其れもかに累德
てよの師とあそびよその徒とかくそ常くはれと
葉とさうに師等もとくれえとうといふを
さうもしもとほくにあゆきの思ふいとま
えどよほよつて既よそもり窓をすゝめと
あれははう船裏にせあゆふとやうてむくつ月

風あくはそち西は山澤の下り
の音としてほよめとをすむ一津と所側へおた
ようてよざの井戸と取くとくとくとくとくとくと
うつを立ててからとく脚の酸さとくらもすくら
はの河をへるあくとれの磯とにくくて所側と
あくとせぬ風波のうちもよくやくよく見と
あくと船の風浪もあひて舟の风浪よまよ
舟やせせ一輪の船とあるよが
じ一筋あうまえとて われのれんせんとくとくし
一念の風とくとくして 空よがとれんせんとくとくし

銷のほのぼのとあがむれて 素のままでいくつともなし
あたれまいけもアラモリ。蟹のほのぼくとくわいし
ゆえやまくにゆえはあれで はとねとれられもしらし
こゝをもて胸のあづれて わりくふゆけりちりし

歌行二十句ニシテ詩三三韵一物、格ナカラ、總テウクスア
一韵六句ノ。テノヨリ六句ノム。用エ宣ミハ一韵所格ト
エイテ倭文ニ一体ノ體ナシ況ヤ世行ノ仰詔ニシテ仰在雲
天也鳥ノ古ニラ高セキミ丈童ラ鏡タニ本ヨリ置魄セラ
ヌテ此ノ魂ノテ子ラニルア然レハ世行ハ水波ノニニ達敷故
高ニハ多ニ行ノ名トハナセア誠ニ禪門ノ詔脉アリ正言

ノ吉川舞却ヒリトニヘレ

一万歳行 五七言

華表人

（同音訛）

トニ吉川五万歳マよ。ハサハタナシヨモアリ也の
アリヤの太和ある。君もひそてゆき。黒すあれ
孟宗孟宗孟。ゆあひもてあひもひそ。せよあひ沒
てひくねうやしやの南也。モアリ。ホエモミタニ
モアリ。トモアモカシテ。モカシテ。モカシテ。
モカシテ。モカシテ。モカシテ。モカシテ。モカシテ。
モカシテ。モカシテ。モカシテ。モカシテ。モカシテ。
モカシテ。モカシテ。モカシテ。モカシテ。モカシテ。

スハ詠
春詩 ひらうひハ同音節
柄モシもくろよひてくや。あくいわくらふ
代モシとてくももくとてくやされ。今のゑとをくつタキに
重相モシく△
冬文詞 えまくさう△
相モシよ風尾△
集君詞 飯ミよ砂糖△
同音節 あうかく
うきうけづかく 実ミよ御ミあをねミく。子歳ミ年ミ令
と近ミよ△
同音節 えくと和ミよ△
集君詞 やう△
らミよ年ミのほミのか豆ミよすみミお柄ミからく△
集君詞 せうめい△
とれむミひくミうりミ日ミのかよミとせやうせよミ

狂言行ハ全篇ハ三章ミ三章ミハ句ミハ句ミ三韵ミ三韵ミ古文前ハ
モモ四ミ二韵ミ三ミ後ハ句ミ二韵ミ三韵ミ例ミ三首尾ミ韵法ミト本ミヨリ

狂韵ハ一体ハ三ミ三章ミ六九句ミに君ミ不目ミトミ也ミ
詠ハ三行ミ魏ミノ樂ミ詠ハ和ミ奇ミノ韵法ミニモ五文ミ
陳ミニテ知ミレむモ弔ミ之弔ミニ三章ミ七詠路ミ路子ミ遠ミ
又ハ杜甫カ唐人ハ行ナト木ミ下ミ裏陽ミ奇ミ毛ミ長短ミ
句ミ拍子ミアリテ是ミ重声ミノ曲ミ節ミトミ云ミリ此故ミ行ミモ短詠
ノ音ミ声ミトミ詞ミトミセり然ミハ流行ミニテワキ庄ミアテ節トミ詞ミトミ差別
アレ文ミ急緩ミ拍子ミ知ミトミ但ミレ柄ミニ几ミヨリ君ミ久スヤド
云ミアヌミハ西人ハ左右ミ因ミ合ミセテ世ミ曲ミアカ蟲ミノ太古ミトミ云ミア
モモ體ミトミ頭ミトミ身ミスミ附ミノ敢容ミアシ總ミハ漢文ミノ金石韻ミ數ミ數ミテ
江ミ千萬歲ミトミ活ミ所ミ丘歲ミトミ無等ミ小鳥ミ万歲ミトミ云ミア
或ハ尾ミ尾ミ詞ミリ承ミ一子ミイ含口ミ大和ミ三君ミハ千代ミ

祝^{シテ}或^ハ鳴^ニ照^ノ字^ハ照^鳴ノ倒^メ特^{ナリ}或^ハ達坂^ニ聲^自ハ鶴^ア
盧^ニ音^ラ合^セセ^テヲヤムヤノ^ナ園^ハ臺^ウ字^ノ縁^{ナリ}或^ハ程^白ニハ
西行^ノ音^ラ滿^リ畫^袍六東坡^カ詩^ヲ寄^セテ^例ニ和^通用^ス
ナ^リ去^レニ畫^袍カ布^穀ノ詩^ニ動^ク我^脱布^襟十^ハ其^鳥ノ鳴^青
上^ハ後^ニ六畫^袍ト云^イ立^クナリ^ト或^ハ三草^ノ名^ラ云^ルハ御所
万^歳ノ詞^ニ難^波曲^トハ酒^ノ名^{ナリ}悉^レハ天王前^カ四盒内詔^ニ
提^ハ蘆^高沾^コ羨^ニ酒^ト啼^ク鳥^ハ口本^ニ糊^摆ノ魏^チ一^ヒ啼^ト
知^音ノ詞^ニ寄^セテ^鳥ノ名^詔ヲ^頸タル^ミ三^ニ天^章ノ^ニ蘆^實人^ナ
只^ルレ^シ或^ハ團^扇ニ柄^トマケ^モシ^テ鳥^ハ囉^物ノ^ハ持^ミ湯^子鳥^ハ
ノ^執カ^イナリ總^テ万^歳ノ詞^ニハ^モルト^フメ^ルト^ニ用^ト^ス

タ^イラ^アハ^未生^シ城^ニ字^ラ云^イテ^至相[、]當時^ノ往^々
三^重郡^ノ早^ニ吉^ニ致^イテ^食三毛^里云^ルナリ^ト或^ハ我朝^ノ松^ニ舊^ニ
平^ニ子^ニ六^月陽^ラ祝^レ社[、]一^ニ子^ニ武^城ラ祝^レテ^左モ^平歲^ノ
カ^トナリ^ト或^ハ平^ニ年^ノ休^レ祝^レ人[、]諸^ノ力^歲ノ^結詔^シソヤラタ^ノシト[、]舞^シ
收^メヌ^シラ合^ハ帝^ノ後^制衣^ニ寄^セテ^家ノ^庭竈^ラ祝^イタル^誠ニ
同^出年^万載^行十^レ但^レ華^衰人^ハ我^師、^隱名^トト^ニ王^年奇^怪
ヲ^憚ア^ハ五^ニハ丁^雪カ^鳥ラ^ミル^ナシ

親^シ

後^事文

む^ナを^す更^にかわ^れと^シれて[、]而^シふ^ニ神^とそ^ノを^祀る[。]

道もとまがのれひやうめ
旅にさあひよみかく
宿をほこりて乞食あらね
せとまく壁のきぬつるみ
お食あらぬへあらよむとて
ひとくやじくよしよくん
ひやわゆれどもろとて
虎ひやくよしよし湯鑑せと
伊勢すゑの國あがと
はれくとせはせとて
馬まよまよのゆき湯鑑
むすめゆきとまひとて
やまくわのゆき湯鑑
りくわゆきとまひとて
やまくわのゆき湯鑑
すて・タミのあくとて
桶もさくわざりゆくと
秋に秋とす雅の一の寒北
やれうあうとすねとす

御まきとくやとくさじ
手のゆよの見らふ
らわと阿蘇のゆくすけ
雪の草原とくすけ
らくとおののくようか
せらうとわぬかくようか
ふとやひりれせとねてと
かーてとせとねの本作
御二月わかことくすけ
えり一走り不破の圓り
三とくとくとあらから
じくむかねた湯のとくは
伝云此時ハ九章ナハ韵ニシテ章毎三四句押韵ナリ未だ往々
破屋ノ奇ヨリ衣食住ニ申ニ住居ニキモノ銀誰ヲ云
然レバ春秋ニテ予以テ夏ヌニ名ヲ互照セシムニ四事ニ譲

ア合テ春秋ノ詞ニ至ル應等ハ闇向ノ主事對ニメ主ニ於篇ノ音
法ヲ詠スニシ但レ草屋ニ音ヲ讀ル古人ノ證音ヲ尋ニ誠ニ
吟ノ一體ハ蛩ノ声ニ喻ニ自己ノ沉思ヲ云ナヘ杜陵ハ我子ノ音侵
雷ニキラ歎キ音ニ天ノ秋子ノ行ホラ思ル聞字ハ起用ノ聲カ
前ナレニシ恐ルニ破ノ月ヲ以テ闇ニニカラ五イナセル結語入題合
ノ後字ナカラ沉吟ノ情ヲ主ニ尽レテ鳥風ノニヨノ西用ヲ知ラ
ハ但シ作者ハ佐野年ニ義農ノ南ニ遁故入道行古毛

曲題

歌曲 二章

作者不詳

トトヤヒトサカヒトハトモハトモハトモハトモハトモハトモ

コトノ月と
書のとやうのあく、うのゆーかやうのゆー
うのゆー

狂云セ二章ハ古キ唱夷ナキノ音曲ノ文體ニ出セナリ大
前主事ハ古今佳作ノ實アリチ用音カラバ之主事ノ花ナシ後主事ハ
新古今ノ花ナシシナレト澤え牧牧カ詩情アリテ床敷ト雲々ヤ
ヌルセ第一章ノ空言新ミテナホ店鶴ノ事見ナランカ

田舎曲

作者不詳

市を出へてすくねづる歸のまゝなれども

まよひの林とてくどき
まよひありあらかじーとあすりひまよひ
うれゆゆのよよことて

行云^{マツニ}三章ハ能登向國曲ニキテ總^{タリ}路向^{タリ}訥謡入深ニ
下室巴人ノ願ナシカニ大樂府^{タラ}古風ニ似テ當年^{タラ}許^{タラ}風情
ヲ添^{マサニ}ヘ^{マサニ}共^{マサニ}舞^{マサニ}郁曲^{マサニ}萬^{マサニ}ノほニシテ田舎曲^{マサニ}體控^{マサニ}
「モエキナリ共^{マサニ}舞^{マサニ}郁曲^{マサニ}萬^{マサニ}ノほニシテ田舎曲^{マサニ}體控^{マサニ}
格ナシ^{マサニ}本白^{マサニ}五セ言ナト^{マサニ}七五ノ拍子^{マサニ}知ルレ

東曲

生仰^{マサニ}

かくや^{マサニ}さしや^{マサニ}と^{マサニ}ア^{マサニ}く^{マサニ}と^{マサニ}を^{マサニ}翁^{マサニ}の二作
らんぐるふ

狂舞曲ハ真田植^{マサニ}ニシテアトハ酔音^{マサニ}イチニカドハ不^{マサニ}停^{マサニ}總^{マサニ}
望^{マサニ}歌^{マサニ}は^{マサニ}寧^{マサニ}禪^{マサニ}ハ^{マサニ}君王^{マサニ}ニ^{マサニ}僕^{マサニ}ノ^{マサニ}舞^{マサニ}真^{マサニ}氣^{マサニ}毒^{マサニ}トナリ但^{マサニ}生^{マサニ}ハ
事^{マサニ}國^{マサニ}陸^{マサニ}頭^{マサニ}ニ^{マサニ}魏^{マサニ}樂^{マサニ}府^{マサニ}ヲ^{マサニ}謫^{マサニ}ア^{マサニ}ト^{マサニ}徒然^{マサニ}爲^{マサニ}辭^{マサニ}折^{マサニ}無^{マサニ}又^{マサニ}ア^{マサニ}

舞子曲

東都行

まよひの林の^{マサニ}よも^{マサニ}かく^{マサニ}の^{マサニ}の^{マサニ}儀^{マサニ}
も^{マサニ}みづれ^{マサニ}わ^{マサニ}ぬ^{マサニ}あ^{マサニ}ぬ^{マサニ}身^{マサニ}の^{マサニ}と^{マサニ}聞^{マサニ}
ふ^{マサニ}き^{マサニ}音^{マサニ}こ^{マサニ}聲^{マサニ}て^{マサニ}の^{マサニ}せ^{マサニ}よ^{マサニ}の^{マサニ}湯^{マサニ}

や林に山ノ木をなひの山ノ木をあつまむにほの山
やうしんすきの木とくわるの木よみくわらす
林の木をもく木やせとあうがお舞の神とんと
ゆよせとくははりすまや林子ときよてまくあ
山も木よこ木と山や猿がぞくとぞくとぞくとぞく
林木の木の木と木と木と木と木と木と木と木
をよせとせとあくま木の木と木と木と木と木
猿りくふくしんこの木と木と木と木と木と木
かよひかよひの木と木と木と木と木と木と木
とと危猿の木と木と木

狂云曲ハヒ体ニシテ一至第五キハ向ナリモルハ行ニ^{ユク}事モキヨト肆
者ノ娘ヲ舞子ト云フ者ニヤレフキミテ大名公家ノ毫毫堂
待ツ^ク如何ニ定ナキ四^ノ舞^ノ書^ノサヤト轉^ク且^ハノアタルラ
ムフニ似テ實^ハ其^ノ親^ノ情ナク及ハヌ空^ノ月ラ故主ムニテウハ
鏡ノ意ニ注テ事ハアヤギ尼トモ成ナシ去ルハ昔ノ舞子ラキニ
今ハ都ノ歴々モ舞子ラ其^ノ業ニ位主ルニ何^ノ某ヤ娘ハ其^ノ師ヲ取リ
テイテ指^シ獨モ花ヤカニ舞^ノ扇^ヲ腰ニサセタル京師ノ時^セ林^ヲ嘆
息セルナリまハ舟ヨギ日和見ルナタ笠キテ狐ニ通行^ス猿モ
絶^シニ度^リソラテトハ皆々猿ノ所作ナルラ舞子ヲ枕ニ^シ嘲^ヘ
タルナリ或^ハ神ニサラ^シトハ如何ナル貧ニモニ^シ歸^テ父母ヲ

おぞまし世ヲ高稿ニ高キヨトナリ或ハ涼モ幽スヤトハ一言帶中ノ
短語ニシテ君見スマニ引スヤノ例ニ古聲角ノ韻語ナリ外レニ
秋子ラクキナトハ猿抱子^{アマガタコノコ}歸^{カム}青嶂後^{トミル}古詩ノ意^{シテ}
向スヤト無^{アム}ナノアドナキラ諱メシナリ但シ世ヲ忍^シ以下ハ玄ニ
物子ノ向^{アヒ}テ後キナ例ニ重吉^{シロヨシ}曲ト見ル^シレ況ヤ相木^{サキモ}子ニ西木^{ニシキモ}柿^{ハタケモ}
對シテ佳肴^{エサ}ノ名^{ニシテ}店ラシヨリ陳菜^{シラタケ}ノ安キニ眠^スハシバト先賢
ノ詞ラ所^シ言セテ朝ニニ暮四ノ金ノ様ラムヘル^ハ等ハ和音^ハ文章
ラ傳ヘテ世ノ采ニ落ニ教誡ラシカレ誠ニ天地ノ情ラ勤レ誠ニ
恩^{シテ}神^ヲ毛注^シレ

引類

富士引

手羽引

謡類

兩乞謡

石搗謡

辭類

同俗辭

山姥辭

艷詞

獻仰辭

情捨^{シテ}よ^シ辭

夕暮^{シテ}辭

鳥邊^{シテ}辭

咸類

幽居咸

猛志咸

引題

富士引 异音

山部赤人

あちほらのまわづはよ祚をひてまくかに發河あつ
かのまなとあまのまわづは行ふれまくはれま
かくろひては月のまくらすとまくまくまくはる
竹くぢやをもゆりりかくくはよソヒはくまくま
不うそのまくわむ

西より浦よりらかアスルハマクシ

マのまねゝやまくまくまく

和云引ハ諸物ニ分明ナラス云レト 詞義 以テ抑テ序引ト

引テ註レヌハ引ハ決レテ詩音ラ後ニスト五ル題註ノ字音
意ナランけ故ニ詩人玉屑ニ毛始ホラ載ルラ引ト云テ彼ハ詩引
ト示ヘ註セリ然ハ万葉ノ題名ニ山部赤人至不今山
歌一首引短音トアル付ハ二前ラ体トレ後ラ用トセリ去ニ庄
長短ノ遠ニアリトテ同ニキラニ角ツラモテ示歌ト、歌荷、
強テハ長短ノキニ角ツラムニシミハ長ニキラリトクニテ短ニ
ヲ後ニナセル時ハ誠ニ辛朝毛引、難アリテ是ラ古今ノ文體
トナサハ選者ニ一部ノ歌カアリト祐スレ次ヤ結文ノ詞ラ見ルニ
ムイワキ行シ富士ノ山下次ノ短ニニムイカケタル不思議ニ序引
ノ而格ラ東テ和漢冥合ノ引ト云レ

本草子引

卷三

本草子

父を名すあふ暁草のニテヌとぞれ凡新ニテ
ひのとあうへやのニテ新アハシムの親
あくまくアモテモ子モシム新アハ活モトホフの而開
キタモシテアリの外の新アシ用ふもいじスアム
キタモシテアリに比蘭の名とあリテヨリ
アリモのわくらモアムニモアムのからひざれし
被つもて是モアリサホのうちヒム

次云此引ハ名説ナラ語路ニ長短折子アハ杜ヤ能行故

引ニ似テラシ是ヲモ傳文ニ引ノ一体ト立ツレ先ハ草ノ事
以テ始ハ其父ノ曾達名ヲ称シ中比ハ其子ノ教訓ヲ加ヘ終ハ
祝詞ヲ用イタル説ニ序詞ノ短篇ニソ一編ノ情ヲアセリト云
ヘ増々ヒテ花鳥ニ詣ラ高セテ引ニハ文法ノ風流ヨリ三重郎
ヲモテナスニ虚實アリ或ハ其向ニ傍トハ蘭ニテ藤傍ノ縁
アリテ其子ノ行儀ヲ云ヘルナラン但シ比蘭ハ木ノ身ノ子ニテ
其比ハサギナリトヲ越ノ高田ニ産入暁草ハ父ノ仰名ナリ

譜類

雨毛譜

船尾珪和尚

之れかとてやをもとまくとくあくとくとくとく

いきわくまくらへりへとくらあまくらひくら
行云此謡ハ播磨ノ人無貴アノ名傳テ而乞蹕ノ唱焉ナリ
去ルハ其ハ世ノ國率ニテ北和尚ノ通性ラ禪泰ヒテ而乞ノ音特
ラ頓ニタラニ外無法ノ禪詰ラモサス此等ノ俚詰ラ
童郎ニ教給ル誠ニ狂言禪詰トカラモ仏事ノ縁ラ
結フクハ天モナトヤ納受タラシ其ハ本末ノ面目ニシテ
其ニハ例ノ不生ナリト且ハ家人ノ人按排入ケレト實ハ蹕
ノ立ニ敵レテ附テ遊戲自在ノ法ト見テ深ク信し高ク仰
久シ但レ殆ニハ播磨ノ龍門ニ住シ後ニ天下ニ檀行ヒテ
仙法東漸ノ禪師トハ云一リ

石捣謡 幷序

序にす

ハトハ義載神秀尼の活潑よりあくよわふをか
トキ行乞はばまのやもあくよびゆきをせす言葉
ナテ大工の作る車輪一丁にて嘗てうりだら
唐寧の活潑よりあくよびとほもじとて意のやりふに
ふともとゆきゆけの跡もとぞくくいふは般若奉
のせくとゆき人のやうあやうにあくよび感陽宣にて義
とほもじられと屬さぬのやうやうとて金剛五種
もとあの所とあくよびせらよ大すれい行あくよ

せよまじくのむかひとくらうやまの金井よとせの
あくでせのまのたまへてしのぬかふうやまの
せのやまよやーてあらもれ風雅とまわせまがくの
はああうとくとくのまわらちとくのあは
わうとくとくのまわらあらむおおきくのよ
えい鑑歌の言もまじめくらうやまのほんの
わくくわくの鳥の行をまわらうのよ
まわら

おまよゑのまわらうのまわら
まわらわれくわくわくわくわく

和云此謡ハ二章七句ニレテ東ハ古事記体トモヒシ云ヒ
其序ハ虛誑ナラテ死世ノ妻翁ナニヤセル文雅ニシテ且ツ
可笑シ況ヤ其謡モ佳詔ナラ花ノ子ニ雅ラ添ヘタル
此等ヲ和謡ノ文鑑トビヘレ但ヒ曾用ノ歌ハ加々金城ニ兩
度ノ面禄アリテ牧童北枝ナ風雅ラ特口其句ハ其六四ニ
吟行ヨリトソミハ題下ノ指主仁平ハ削ミ村師ノ和名ナ

辞類

風俗辭 异序

渡部和

あるふらうて所ノ音ノ音ノ音ノ音ノ音ノ音ノ音ノ音
はき叶書うふるく些ニテニアレクシキヒテ語

の音津ともすとひらきくもひれわらりとすと雪の音韻
とく通じてうし漢文の辭類より武帝の秋風と始と
つひて六朝一叶のあそひの字より詩書にて騒とあら
騷にて辭とかれ。騷の書はもううるまの辞の書
「あそひ」の書はいふ辭節の口もあら。物ぐ一をひ
まくとけり。あら詠ちよ御のやうしあん二も
考へてよう一格あらせよ五七のはじめを詠の式
ふうやうとくへどもみの同性とぞむかねへばくわざ
伊豆山より。漢の書れ秋月の歌あつてを詠と聞
詠つねき何の歌。りほくおきまきとびうては疋

「かの船とよゆふ辭はのあらひては疋。辭の
辞のよとあせくまくへひやみ幸の歌とよゆ
まくカ訓解あれど、辞類とよゆとよがと行
うれよ訓の口とよ。歌とよ説えよは疋。辭とり
せうへ詞ありてはれと辭をよとよせ微情とぞせうへ
やまく言句のわからうとすを或へた文所すと辭の情深
詔辭へと絶めよとよういへやみ幸のかよよ詔
とよくよしは書のよの凡詔とぞれとよんじては書
のよによしはれて辭のよれ訓もよとよくよ詔の辞
よへ土作に記す。伊勢和歌の詞をよくやへて是吉も

の詠せらるゝ能狂言のとて物あらむせん
ああめへこまひ事へくるるにけりも詩賦行のた
りとくみだらうんほれとキムアシテヒトクアム
の辞とあくまくは人の國の詠をとしかれいがわの
文有りきもんねよらむをもうかをもふの丘あしは
師師の詠詞とせりへばへとくにほあわ申言王
もむ駿毛音詞の二格めれどもす風流辭ニ三章にて
わの風流あらんやうなのをさとひられてし辭と
てすへばう遠くえ半音せの詞とさうなを近く
ゆ余遠世の辞ともじふ

傾珠詞

うううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう

馬士詞

うううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう

和云此一言而ハ辞類ノ註解トりル。シ先に楚辭ト云附ハ
楚國人ノ詣音ラ字セシ辭也ハ閩東エヘイトエコニヌト
エイ都ニハサンセ氏アンス氏助詣ハ國々ノ風俗ナリ。ナレハ序
モヒ辞七句讀ノ長短ラ調ハカルハ詩賦五行ナラス
六七體ノ外ニ叶倍ラニ立テ焉ク文體ラ漏ラカレナリ
吉ハ頃城ノ詞ハワシモヨモ彼カ平詔オカラ使ミルトニカウ
廉ニタルトニル例ニ凡雅ノ志ニキルナリ。次ニ馬生ノ詞ハ鑄異
名ヲ彼カ夙俗ニシテ十又ラ雀トエイニナラ闇トエル竹ノ
二字ハ例ノ凡雅ナリ或ハホコニモ無アキヌトハサニナラ又ト
エア莫テホワトツメモハ耶詔ニ些ニモ遠脱モ玄ニ知ルヒ

山號辭

一体和尚

キムシム號をとふもモカクモキムヤクモ
キムクムテソムナムの風也。アーモクナハ胸ヌアモ
リテ命ミテヤルカトカヘリ。自性ト言代ヒ
一念化との事也。トアリテ目がよまかレヒ。邪ニ一加
ヒテ心を色即足空。ヨリニ仰ハアレハセリ。邪ニ一加
ヒテ心を色即足空。ヨリニ仰ハアレハセリ。邪ニ一加
ヒテ心を色即足空。ヨリニ仰ハアレハセリ。邪ニ一加
ヒテ心を色即足空。ヨリニ仰ハアレハセリ。

行やとじきを病ふるゝと、うつむかへてひそむて
思はてかくす時もあり又あはば「識能の」といふ事
思ふてなのうらひもあくまうる節續のかたへあらが
とまくときもそぞりとみゆきのし味の向ふてか思ひ
とやくのよしんせとうの解のがれもくらむる
をかねてあるもの用ふせられうらむじ人のまこと
ふるす所一かずせ確よりすれどもうらむきと山姥
りもすねやむよからうてせがくとせがくおはなびと
「あゆもてす熱う所くらむよひもよひもよひも
山姥う山姥う山姥う山姥う山姥う

往云北齋ハ世ニ知ル訥トヤラ例ニ、我師ノ論ニ注セテ、裏ニ詩入
一言ヲ即フマレト而未曲ノ訥ヲ指シテ辭、體ト云ニアヌ、訥ノ
中ニ北齋アミナラシ古ヒ山姥一冊ハ一休和尚作トカヤ
セニ善クエイ傳テ、右今ニ大布有ノ丈法ナリト越萬然
念起ヨリ諸法比尼空ノ通ラキシ魔仰一知ノ理ニ靈シ
テ柿ハニトリ花ハ紅ト同前、境ヲ云イ尽シタルニ色ム
字ハ結前生後ノ傳キアリテ、人向トミテ顛々仙理
ニ通セスニハ一休ニアルニシテ、文字ニ童セスニハ一休ニアラサシ
況ヤ花体ニ月壇レト文章ノ手筋ニ鼓舞ミセル百度
モ胸テ感スキ復ナリ但シ訥ラ辞ト人語路、長短ニ知ルキ
ナリ

艶詞

第三部

北云別のふかまくわらうはうお持ひてうの
うひまわらひてうのうのうのうのうのうのう
みほれかまくさうとがまくさうとがまくさう
くやまくとがまくさうとがまくさうとがまくさう
まくさうとがまくさうとがまくさうとがまくさう
あともやまくさうとがまくさうとがまくさう
へんやまくさうとがまくさうとがまくさう

ひうりとよめせすかふありてうふのうふのう
とよめをかこむとがまくさうとがまくさう
くとがまくさうとがまくさうとがまくさう
うとがまくさうとがまくさうとがまくさう
てねくとがまくさうとがまくさうとがまくさう
とがまくさうとがまくさうとがまくさう
狂云北段ハ深年紅葉歌ノ詞十ラ章此題ヲ加夏
八之藤、隆房ノ艶詞ニモラ情シリ去ヒ深年物語
秋翁ノ文章ノ鑑トナレハ筆下ニ綻擅ノ神アリテ人情
ラスニ委曲ナラストニ古ナレ唐ニテ北段件上ノ深年
思ヘ給ヘル六十帖中ノ骨筋ナラ然ヘ幼キ人對レ

テ余所ノ恨ヲ負フニ久承ケ在リテ添ハニトハ知サラ
スカセル詞モアラス好色深妙ノ幸情ナルニ白頭玉タツノト
ナ四十三歳タツニト也モ角モイニ玉ハストニ所ニ枕草絆ト
添キトノ清潔ヲモ知キナリ誠ニ其官ノ勝在ニ盤石
ヲ以テ押スヤ如ク淳年モニガ子結ヘハ筆力不當談ノ
艶詞ニテ比向ニ惠深ノ情ヲほんレ

獻佛絆

鳥丸之唐

善福院に於て一壁イシタケにて隔てて僧會の
鑄像ナリ多因新古と儒仲の打拂ハラフと

仰とナ却ひふくふ口人とぞくはるく此て
ひのかくよりありしとてあ美含せ因ツヨシガト
独處を嘗へよきに於ては猶子タマコもあらず
五十六歳タツシテ有馬山の又重りとすてえやうて
主近タチとあらかじまト
歎言よりとてまつかられ
ゆく御前とてかくまくし
ゆと絶歌の猿絆サルハシとてまく生
とさむとてかく角カクツあやま

狂云姑父翁ハ完廣卿ノ有馬ニ入湯附ノ筆下石トフキ
行次ニ書傳テ見角ノ誤モ有ルキヤ然ニ此ノ偏ノ題名
結文ニ締詔ノニモラクシラビシニテ題セシカ中間
ノ首ラ辞トリシヘモ古文ノ通文辭ニ似テ前後ニ
和音ノ家ナカラ此等ノ字格モ遊ヒ玉ヘル誠ニ文法ニ
説カヨリ虚實々自在トハ称スレ

情拾子辭

芭蕉庵

駢はの國ナリ川ナリツユニ河ナリアラ

あれをよ往あう、まやけ川のよひ、かまてば
のれとまゆあくまゆもあけくまゆ金トアロド
まゆもまゆとまゆじかこぶらゆのせりもとまゆや
りまんあくやどあくへと被り冷やかすとまゆ
猿とす人ねよ、ねの月ひづみ
まゆやけそつまゆかわまゆほしゆとせ
まゆスミけとまゆじよもとゆとゆとゆ
みもとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
狂云此辭モ漁夫ノ文勢ナラバ拵子ニ秋ノ風イヤニト
向ヤケテ如何ニヤト序詞ニシケタル但レ辞體ノ一体

倭支ニ辞ヲ立ル皆ハ千般法格アルレ誠ヤ富士川瀬ラ
浮世ノ波ニニイヤテタル北川ナラニハ更ニ知ルニシ小森カ露
ハ源氏ノ奇ラ情リ父母ノ情愛ハ且モア天性テ云ル例
和漢ノ博達シテ是ラモ源家ノ辞ヨリ体支ノ助詔ヲ用得矣
トミシ

夕暮辭序

東菴坊

て詞トリテ医ノ人トもうひ歎トリテ医ノ人トもやヒ
その心をかくす事アリテ人アリテ之の胸の聲
トモアリテ聲をあぐ人アリテトモアリテ人アリヒ
トモ旅人あぐ人一鉢の僧トモテヤニテユ高の旗
妻子とかくらむ様の人トも名をわざリとせよ
あうて折々旅人あぐ人あらひとひりてあらひ
のそ春秋もアラヘトモヒトモモモと武士の旗
リリ付近にアラヘトモヒトモモモと武士の旗
アリトゆるの令ナガキリまもヒ軍ミミズクアリ
皆旅ナリて旅とあらひ人ト言ニ阿流窓の
カツ

わやけの下にあつて武陵万里の旅よりむき
をそよぐれよどみひじふくにいからうと
みじきくはのまほとこ秋よそむの日と見
よ二千里のかたぬくわざみこと立むの月と見
りて歎路の月とゆきりびくに人をやのひあひを
へそよ支恵の説の下であひじのをもとづいて
もあのに南よをほもあくに新よを酸の味とまづて
馬祖庵倒の巻且まよてんへーーー切りのふ
とてゆ年詠うどとやうかんとねはくとねはくと

あけとさくにタスとおむかし

解くやせみくらの旅人をせとまくかくせ
ぞれとくらとあくほのむりりくらあくとくら。
かのうとせ駒へーーけゆふとくまとくまとやだ。

狂云北辞ハ十三句アリテ鷗立一句ハ巣詔カハ十二句ニシテ
う韻ナルキニ是ハ二句合ヒテ一句ノ意元故ニ六句ニソニ韻
ナリ是ラモ叶韻ノ一格トクルレホレハ其ニ序ハ老子ノ詞ヨリ
ヰヒハ毛詩ノニ秋ラ禱ヒテ和ニ仲唐カニラ寄セ漫ニヘ
王維カ詩ヲ合ハス梅子ハ傳灯ノ故古ニシテ師オノキノ称名
ニヤ總テハ西行ノ東下リハアラニテ定ニ承知シロ屋ノ伦

シカラミル幸ヨリミタニノ詞ラ合メテ價倍ノ加賀富田旅
ニ頭ハセル誠ニ文章ノ奇法ト称スレ矢ニハ比々倣ノ辞ニ以テラ
漫文式ラ字リテ別ニ倭文ノ一体ラニタル法ニ私ナキ證ニ
ナラン但レヒ序ニ湖東ノトハ丘鹿井ノ許ニシテ其ノ叶ニ參拵行
舞ト題レテ彼カ支那ノ卷頭ニ置キヌエト辞ト題セシハ別ニ
筆格モアシニヤト此辞尙テ論アレハ美ニ此を扁ラ出セルヤリ

鳥遊辭

作者不知名

やんらきりやよ町や一ノ町のまほづうまで御の神
といひのまか風も乃くひの祠りらぐひの木は門よか
中の物のうちもと常年ぬるの帝代五とせやんれ
むとく四そとれ／＼かりて下すと御まととまと五と五
ねえすとくうの町のまよとよまつりとこかね町めまよと
万牛づりと麻毛あす駒にほりやかれて雄羽子
ゑづり雄羽子とくらじまつりのとよつたみとくらじまつり
うすありと躍すと無事の種まよとおほいねと三筋と
囃のまよとほりとまよとおほいねと馬毛もとくらじまつり

吉原向の山内とえどりの山やらだち将とおお将向と
殿下とおひいきさんとまのまほづうとゆくよすと
山へ西田とよ所と山と山とよ所とありき／＼八と町と
中と山のまきとと常年ぬるの帝代五とせやんれ
むとく四そとれ／＼かりて下すと御まととまと五と五
ねえすとくうの町のまよとよまつりとこかね町めまよと
万牛づりと麻毛あす駒にほりやかれて雄羽子
ゑづり雄羽子とくらじまつりのとよつたみとくらじまつり
うすありと躍すと無事の種まよとおほいねと三筋と
囃のまよとほりとまよとおほいねと馬毛もとくらじまつり

南よりよしむてすあれ四の作而すきりてすよ
南よりよしむの従もよしむのえとりよしわんとひよて
えもう西にタリとひよて近とひよて一年をうら
望みてよれハナ月山ニ^ノ月所をの月と元月といふ
ア西月の月とを即月と祝すて中畠ひよてとくわす即
うらばくらかくわしむ仰たのめくと見をのらへる

狂云北章ハ正月ノ祝詞ニシテ鳥追ト云者ノ農辰民行
ラニイマリク喝奇たり其ノ者ハ育レ説經者ト云テ達政
韓凡ノ流ラ吸テニ井ノ近松復ラ本寺トセリト今危難
ト云者ナラン然ニ此ノ篇ノ分明ナラス耳凡ノ者ノ物也

鳥正馬ノ語ハアラテセミ五フ武藏行キ慶ラシホヘン
ト向謡セル如クロ接ノ邊イキメランあレト此ノ文五章
ヲシ思九向シテ定ムキニモ非ス五々ニ其ノ文ラ中畠レテ
は格外ノ凡雅ラ知レトナリ去ルハ五七ノ詔路モナウ假名草
人配モナク二句長短ノ節モナキニ既雅ノ情ラワニテ
北等ラ辞ノ文體トセハ文章ノ家ノ活計ナラサリ去ル
此ヨノ林第庭ミモアレハニヤ一廳均所ノ所也ニ中牧ハ井田
ノ法ラニル但レハ西吉吉上ノ事也ニテ上古ノ作文トハ
レニナリ卷ア結詔姪婦ヨリ不意ニ仰法ニニシテムニル
姪婦行タノ祝詞ノ仰法ハ彼カ寧詔ナリト見ル

藏類

陶居藏

毛羅庵

あやかとれらるやにとくのまほまじうりく
人よきまみへんとよきまくいふよらふ
すれど自のゆゑをのあくとくのよきつれふ
そくふやわざいがまくさくらぬまくと
から庵のモト行あまくとあくとくふらむと
てよとせよろととくわやくらりのよや

湯けづりくとれく年ねゆのす

任五比題ハ大学ノ辞ラ備テ向ハ陶居か入ノ独創ナリ

ト朱氏ド註ニモ云ヘリトフ志ヒハ此篇ハ陰有ノ常情ニシテ
或時ハセラ疎トミ或々ハ人ラ懷レムキヨリ凶神不定ナリ
ハ頓阿モ凡月ノ情ニ過タリトニ弗好法師ノ蔵丸保
誠ニヒラ篇ハ前後ニ羽字ヲ用イテ自己ノ敵乱ラ藏丸
首尾ノ文法ラ見ニキナ但レ此句ハサ字ノ聲句トモ云フ
(キヤト故ニ羽モ詔リ玉リトフ常ニ我仰ヘリ古ラ云ヘリ

福應藏

ち巴辭

福くくひうりとすこのまは懷きくらぎのねいほづゆま
うまの仲すもあきれて今ト婦のあまくあくまくふく

宿屋の腰シテあきらめり牛ふと男猫アヒトコトといひかでナミ
あのをかわせりちからむらう月のほのよもい
まくはりとく月とくにかわせ今まくらむ
うれもし旱ハラ野等宿のうきるすくらむ
ほそ今やの經ノリ掛スルもたまうわへ毒は威
のきよもく、猿モノの山ヤマねふくわふくトトロれぬ
そくしきとてまくはりれどよもくわく
ひくまわぬわゆきのカヌハシり、用がわゆ
スを軍カウめんカウキやられ瘦猫アヒトコトとありて軍カウめ
隊カウのサハシくまふすかの生ハシくまくわの

川カワホとふはきしにけと有情ヨウジョウのきすすみすす稀ハシ
一イチ面マツコもろいやとくへんとニセニセまことかくしんと
心ハラくとく稀ハシくとくとくらんとねくとくはく
ひくにけうねとあやひくまくと稀ハシくとくはく
とくじきとくとくまくとくとくはく
れ云此聲ハシノヨウハ自利利他シリリタ詞ハシ言音ハシノヨウニ實雅ハシアリ
ハ源氏ハタケ内ハタケ流ハタケヨリ枕草辨ハタケノ寓言ハシノヨウ合ハシ或ハシハ徒然辨ハタケ
古語ハシ借ハシテ稀ハシ名ハシ古ニキハシ採ハシ孤ハシトハシ猶ハシトハシノ父ハシアリ
アリテ又ト云テ徒名ハシナラ童子ハシヌエル文筆ハシノ自在ハシ
此間ハシニ見ハシヘシ然ハシルラれすノ詔ハシノ人ハシ色敵ハシノ猫ハシ

毛使向數ハ遠ク歲テ近ク慎才アヤ然リ色ニ遊ヘクテ
色ニ漂フニカラストハ角雕ノ意也北支那ニレ但ヒ正靜太田
氏ニシテ尾ノ城下ニ假居ヌ素生ハ濃ノ竹、龜ノ屋ナリ
トフ

